



【三輪甲板長】

## 神奈川県沖の軽石の現在状況について

今回は現在問題となっている軽石について、「江の島丸」甲板長の三輪が説明します。ご存じの方もおられるとは思いますが、軽石の原因は何だったのか。また、関東沖に漂流しているのでは。ということについても話をしていきたいと思います。

まず原因についてですが、2021年12月時点では小笠原諸島の海底火山「福德岡の場」の噴火が原因ではないかとされています。この噴火により発生した軽石は、黒潮逆流や強風の影響を受け、沖縄に漂着した物と漂着することなく今度は黒潮などの海流に乗った物があるとされています。そして、後者は関東の沖合に達することが当初より懸念されていました。結果として、予測されていた通りの軌道を辿り、神奈川県海面でも軽石の漂着が確認されることとなりました。

本県漁業へも重大な影響が危惧されたことから、漁業調査指導船「江の島丸」では目視による漂流状況の確認とともに、大型ネット（ネット間口直径：1.3m，ネット長：約5m）を曳くことでサンプル採集を試みました。



【大型ネット間口直径（1.3m）】



【大型ネット長（約5 m）】

方法は、この大型ネットを速力4ノット前後で20～40分程度曳き軽石を採集するというものです。



【大型ネットを曳いているところ】

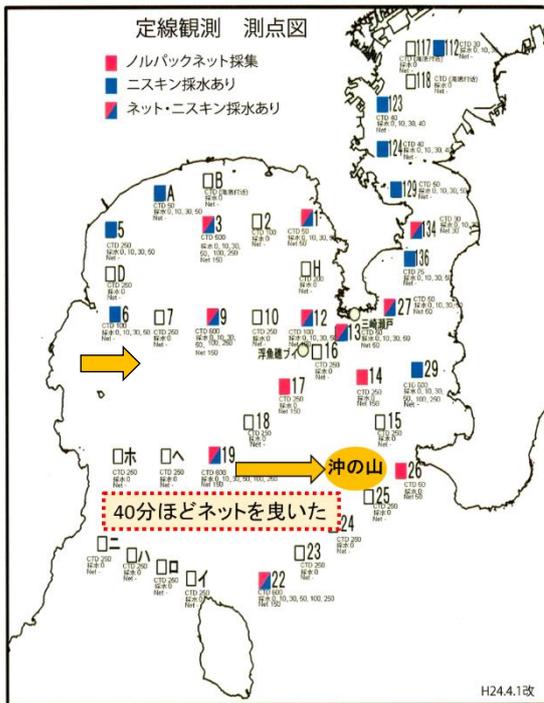


【採集されたサンプルの一部】

現在まで3回調査を行いました。結果としては1度の調査でおおよそ1mm～10mmの軽石を30個程度採集することができました。また、採集された軽石は下の写真でも確認できるような、ニュースでも見たことのあるチョコチップクッキーのような形状をしていました。



【チョコチップクッキー柄のサンプル】



3度の調査では大島周辺及び、左図で示す場所でネットを曳きました。結果は、細かい軽石の採集はできましたが、大きい物については4 cm程度のものが1つしかありませんでした。

これらの情報は水産課を通じ、いち早く県内漁協、市町、漁港管理者、近隣都県等へ情報提供を行っております。今後も軽石の情報が入れれば、被害を未然に防ぐべく、同方法を用いて調査を行い、関係各所へ報告していく方針です。

最後に、先ほども紹介した上の測点図。これは毎月、「江の島丸」が観測を行う大島以北の東京湾及び相模湾の測点となります。これらは全41点あり、調査項目の多い点では水温・塩分・流行流速・透明度・クロロフィル量・DO（溶存酸素量）など多岐にわたり観測をしています。これらのデータは数十年蓄積され続けているため今後も研究をしていくうえで非常に貴重なものとなっています。